



狂通
言し
仮名手本忠臣蔵

(大序より四段目まで)

まんが
細川
紹々



桃井の館にて

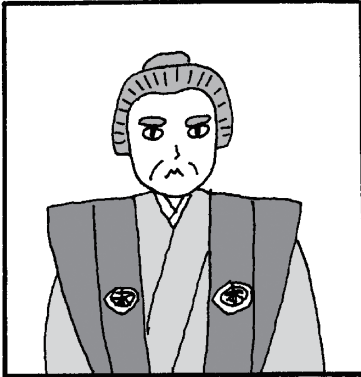
こうなつたら
家の断絶を
覚悟で
師直を斬る



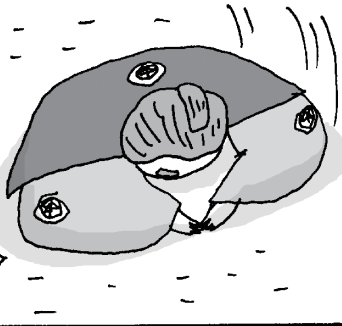
次の日
登城中の師直の所に
若狭助の家老
加古川本蔵が面会に
来ました

さては
一昨日の
鶴が岡での
意趣返しに
来たな

家来ども
気を配れっ



今まで主人若狭助
が無事にお勤め
できてるのは師直様
のおかげです
その御礼として
贈り物をしたいと
思います



その頃お城の中では

おのれ

師直まっふたつ!!

ブッおおお

大激怒した若狭助が
師直を待ちかまえてます

これはこれは
若狭助殿
早い登城
ですな

来たなッ

キッ

実は
改めておわび
しなくては
いけないことが
ある

さッ

エッ

鶴が岡で
わしが言った事
さぞ腹が
立つたであろう

年寄り
は
気が短くて
すまん
のう
おわび
します

ユルシテ

さあ
お部屋へ
どうぞ

金のため
金のため

加古川
本蔵

赤ッ

これで
お家断絶は
まぬがれた

ヨッ

そこへ塩谷判官も
登城してきました

おそーい
ちこくじゃ!!

失礼
しました

女箱

これを妻の顔世から
渡してくださいと
持たされました

やった!!
わしの恋文
の返事か?!

イヤ
おぬしの妻が
わしに和歌を
習いたいとい
うのでな

その
手紙
じゃ

ガ
ン

また
フラれた

さつき若狭助に
心にもないこと
を言つて
ムカつくし!!
またしても
顔世に断られて
ムカつくし!!



これ
判官様

おのれ
師直
まっぶたつ

怒りに
くるつた
判官は
殿中で刀を
抜いてしま
いました

お前どうせ
ウチから出たくなって
ちこくしたんじゃろ
そんなにウチが
いいか?
お前はウチに
へばりついてる
フナだ
フナ侍だー

